

閉ざされた私生活に密着3年間

「ハンセン病」とは、らい菌により主に末梢神経が侵される伝染病です。らい菌は熱に弱く、体温が低い顔、手、足など肌が露出した箇所病変が現れる。これが歴史的に差別・偏見の対象となり悲劇を生み出したのです。

日本では、かつて「らい予防法」という法律により、患者たちは強制隔離され差別と偏見にさらされ、「人」として生きることが許されませんでした。

山内夫妻は東京都東村山市にある国立療養所多磨全生園で知り合い結婚。50余年に亘り療養所の中で息を潜め暮らしてきました。2001年、国が「らい予防法」を違憲と認め、全面的に謝罪してからの10余年、夫妻は失われた時を取り戻すかのように生きました。

元患者たちは様々な事情で取材をすることが大変困難です。しかし山内夫妻はハンセン病の「語り部」となるべくすべてを見せてくれました。

この写真展は「普通の生活」を夢見て生きようとした二人の3年間を追った記録です。

報道写真家 片野田 斉

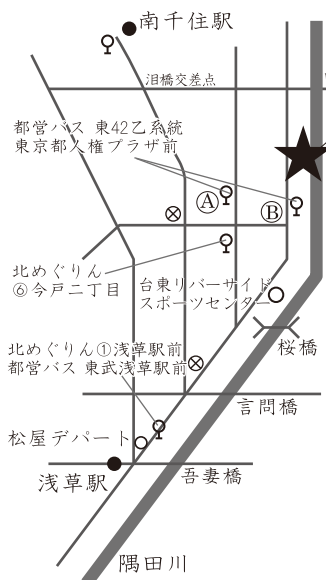


山内定・山内きみ江（やまうち さだむ・やまうち きみえ）

1926年、定、島根県に生まれる。1934年、きみ江、静岡県に生まれる。1957年、きみ江、国立療養所多磨全生園に入所。同年、入所者の定と結婚。2001年、養女を迎える。2005年、きみ江、園近くのマンションに転居。定は持病悪化のため園に残る。きみ江は毎日のように夫の元に通う。2010年、孫誕生。2011年、定、死去。きみ江、震災半年後に全生園内に戻る。

片野田 斉（かたのだ ひとし）

報道写真家。1960年、東京都東村山市に生まれる。明治学院大学卒業。2001年、9.11米国同時多発テロ事件に衝撃をうけ、各地の紛争地を取材。2010年、山内夫妻の取材開始。2011年、東日本大震災を翌日から長期取材。ニューヨークに拠点を置く写真通信社Polaris Imagesメンバー。2012年、『生きるって、楽しくってーハンセン病を生きた山内定・きみ江夫妻の愛情物語』（クラッセ）刊行。



東京都人権プラザ

【南千住方面から】

- ・都営バス
東42乙系「浅草雷門」行
南千住車庫前→東京都人権プラザ前⑥

【浅草方面から】

- ・都営バス
東42乙系「南千住車庫前」行
東武浅草駅前→東京都人権プラザ前④下車350m
- ・台東区循環バス
北めぐりん(15分おき)
①浅草駅→⑥今戸二丁目下車350m

■お問い合わせ

公益財団法人 東京都人権啓発センター

〒111-0023 東京都台東区橋場1-1-6(東京都人権プラザ内)

TEL:03-3876-5372 FAX:03-3874-8346 E-mail:tenji@tokyo-jinken.or.jp